

# 新線開業情報

## (時刻表掲載順)

本誌第10号編集時(2022年9月)以降に開業した主な路線を紹介합니다。ここで紹介した路線・区間の延長の合計は約1769kmです。

※印を付した路線は、今号の基準として採用している鉄路客貨運輸専刊には未掲載のため、線名・区間・キロ程のいずれも仮のデータです。

また編集工程の都合上、本欄記載の各データの方が時刻表本文の内容より新しい場合もあります。

- 1. 京浜城際線(a03) 宝坻～北辰 54km※**  
**京唐城際線(a07) (北京～)北劉各荘所～唐山 141km※**  
 政府が進める「京津冀(北京市・天津市・河北省)一体化」政策に寄与する2本の路線が開業しました。北京から河北省北東部の主要都市である唐山市、秦皇島市への直行ルートは従来普通線しかなく、高速線では天津を迂回するしかなかったところ、これを直結する京唐城際線が開業。また北京・天津の両直轄市を結ぶ第2の都市間高速線となる京浜城際線の一部区間も開業しました。将来は「北京城市副中心」駅(本時刻表では「北京通州」と表記)が両城際線の起点となり、北京東郊の新たなターミナルになるとともに、京浜城際線は天津の滨海空港へのアクセスも担います。
- 2. 合杭高速線(b27) 湖州～杭州西～桐廬東(～桐廬) 138km※**  
 湖州まで開業していた路線が延伸され全線開通しました。途中には杭州市の新たなターミナル「杭州西」駅が開業し、杭昌高速線とも接続しています。将来は杭州西駅を軸に、新路線で上海方面や温州方面とも結ばれることとなります。これらの鉄道ネットワークの進展は、長三角とよばれる揚子江デルタ地帯の一体化政策に寄与します。
- 3. 済萊高速線(b39) 濟南東～鋼城 116km※**  
 濟南から南側へ、萊蕪を経て鋼城まで高速鉄道が開業しました。これまで泰沂山脈で阻まれていた濟南市中心部と同市南東部(旧萊蕪市)の鋼城区の間が高速鉄道で結ばれるようになり、都市の発展が期待されます。計画では本路線は臨沂まで延長し、京滬高速鉄道のバイパス線としての役割も担う予定です。
- 4. 興泉線(c31) 清流～永安南～泉州 290km※**  
 本路線はすでに興泉～清流間が開業していましたが、さらに泉州まで延伸して全線開通しました。全通により贛南と閩西地区への路線ネットワークが構築されるとともに、海陸を結ぶ重要な通り道として、沿岸地区へ新たな活力を吹き込みます。
- 5. 銀蘭高速線(d17) 中衛南～樹屏(～蘭州西) 222km※**  
 銀川から中衛南まで開業していた路線が延伸され、銀川～蘭州間の高速鉄道が全通しました。中でも寧夏回族自治区に位置する香山トンネルは、香山山脈を貫き9カ所に及ぶ断層を克服する難工事でした。中国の高速鉄道ネットワーク構想である「八縦八横」の「京蘭通道」(北京～蘭州ルート)の重要な構成要素であり、今後さらに銀川以東の路線が完成すると西北地区から華北・東北地区への最速アクセスルートになります。
- 6. 瓦日線(d37) (湯陰～)鶴壁時豊～紅旗渠 60km※**  
 石炭輸送のための貨物線である瓦日線のうち同区間について、旅客営業が開始されました。瓦日線で旅客列車が走る3番

目のケースです。終点の紅旗渠は、同線旅客線化の最初の事例の終点駅である蔡家崖と同様の「革命聖地」のひとつであり、革命の事績を巡る「紅色旅遊」の目的地になっています。また、国鉄旅客輸送の死角となっていた河南省北部の東西交通を補完します。

- 7. 重慶東環線・渝熊線(e21) (重慶西～)珞璜南～重慶東～寸灘所(～重慶北)・磨心坡 186km※**  
 重慶市街地の東部を巡る環状線が開業しました。当初の日本の武蔵野線のような「貨物用バイパス線」という意味合いが大きく、現状では旅客列車は2往復しか走っていませんが、近い将来一大ターミナルとなる重慶東駅(未開業)や空港アクセスも担う江北機場駅などもあり、今後の発展が期待されます。沿線には重慶の企業や物流基地があるとともに、各駅で地下鉄やバスへ乗り換えしやすい環境が整備されており、都心から郊外鉄道への接続機能を担うこととなります。
- 8. 渝厦高速線(e45) 益陽南～常德 94km※**  
 逐次開業してきた渝厦高速線ですが、本区間の開業で、長沙から黔江までが高規格路線で結ばれました。現在、黔江以西と長沙西以東についても建設が進められており、全通すれば文字通り渝(重慶)と厦(アモイ)を結び骨格路線となります。
- 9. 峨広線(e55) 峨眉～冕寧 241km※**  
 世界有数の山岳路線であり、その建設工事の苛烈さでも「革命精神」の象徴として新中国の鉄道史に名を残す成昆線。これに並行する高規格路線が数次にわたる部分開業を経てついに全線開業しました。所要時間は劇的に短縮され、運行本数も大幅に増加しています。旧線との間にはいくつかの箇所でも連絡線が設けられており、貨物列車の多くは積み降ろしを旧線で行い、連絡線を介して広域輸送は新線で行う運用をされています。なお、当初は新線が成昆線と命名されましたが、歴史的経緯に敬意を表してか、由緒正しい成昆線の名称は曲がりくねった旧線に残し、新線は峨広線を名乗ることとなっています。
- 10. 南憑高速線(f31) 南寧～崇左南 121km※**  
 広西チワン族自治区において、南寧からベトナム国境に向けて高速鉄道が開通しました。将来的にはベトナムとの国際的な輸送路として重要な役割を担います。
- 11. 弥蒙高速線(f53) 弥勒～紅河 106km※**  
 雲南省南部の紅河哈尼族彝族自治州内を南北に走る高速線が開業しました。同省の省都・昆明市と同自治州の中心都市・蒙自市を結ぶ路線としてはすでに玉河線が存在していましたが、本路線がより高規格なメインルートとなり、さらに利便性が向上します。本路線は、昆明の鉄道ハブを介して、将来的にはベトナム、ラオス、ミャンマーの国際鉄道の動脈と昆明から南寧・広州方面とを結ぶことが期待されています。